

8 河道特性

岩木川は、青森県西部の日本海側に位置し、その源を青森・秋田県境の白神山地の雁森岳(標高 987m)に発し、弘前市付近で流れを北に変え、平川、十川、旧十川等の支川を合わせて津軽平野を貫流し、十三湖に至り日本海に注ぐ。河床勾配は、下流部の汽水域では約 1/30,000 の緩勾配であるが、中流部は約 1/4,000 ~ 1/2,500、平川合流点から上流部は 1/500 ~ 1/300 と急勾配になっている。山間部には溪流や滝などがあり、豊かな自然環境が形成されている。

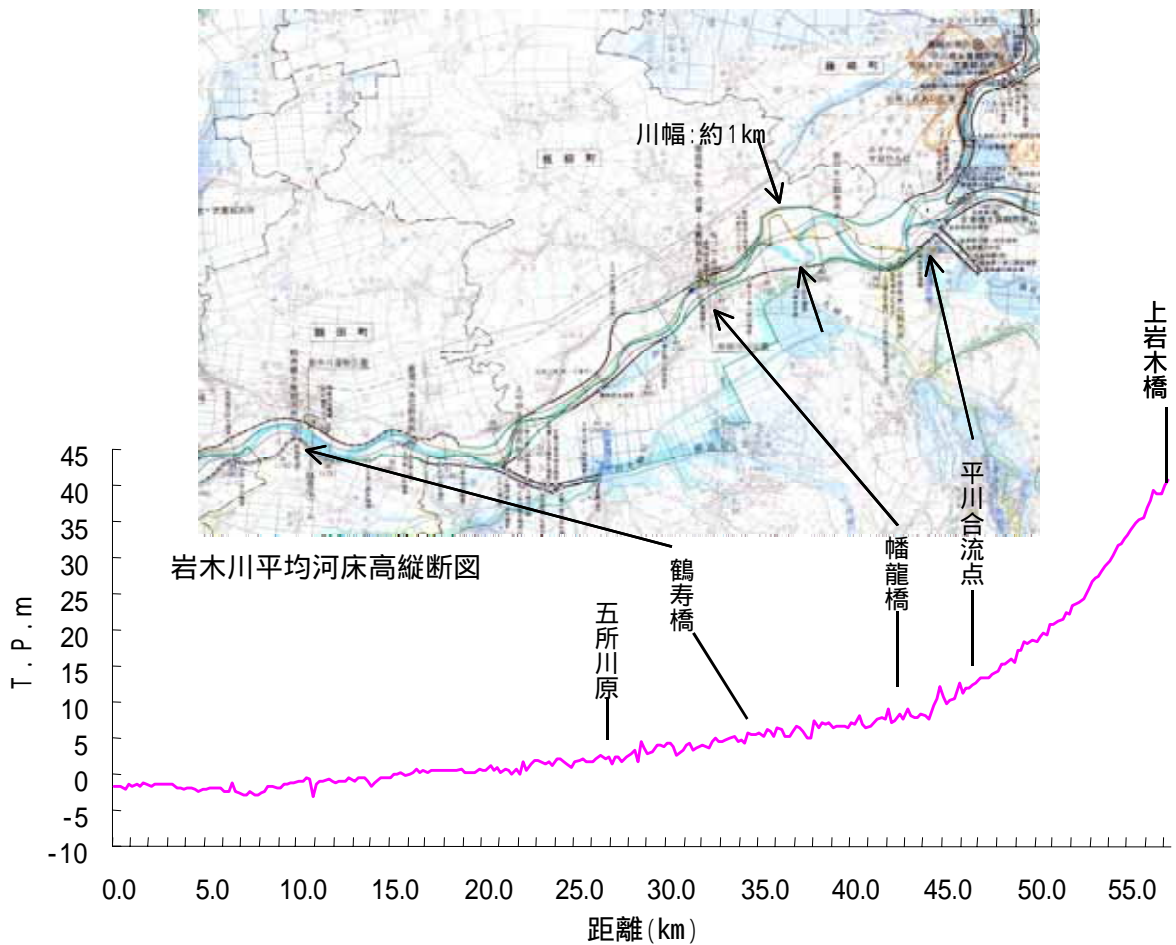


図 8-1 岩木川 平均河床高縦断面図

(出典：青森河川国道事務所資料)

(1) 上流部の河道特性【平川合流点付近より上流】

雁森岳を発した岩木川源流部は河床勾配が急で、河床には巨石が点在し、流れが速い。その後、大秋川、相馬川、棚内川等の支川を合わせて直轄管理区間上流端である上岩木橋に至り、弘前市街地を貫流し、平川を合わせる。

この上流部の河床勾配は、最下流区間で 1/500 程度、弘前市街地より上流は 1/300 程度で、河床の代表粒径は約 27 ~ 36mm 程度となっている。

【上流部(山間部)の河道の状況】



【52.0k 弘前市富士見橋付近の河道の状況】



【46.0k 岩木川・平川合流点付近の河道の状況】



(出典：青森河川国道事務所資料)

(2) 中流部の河道特性【平川合流点付近～五所川原付近】

中流部になると河床勾配が急に緩やかになる。低水路は大きく蛇行し、広い区間では河川敷の幅は約 1km にも及び、自然堤防の発達した河川敷にはリンゴ園が広がっている。途中、旧大峰川、新十川を合わせ五所川原市街地に至っている。

この区間の河床勾配は 1/2,500～1/4,000 程度で、河床の代表粒径は約 1.2～8.4mm 程度となっている。

【44.0k 付近の河道の状況】



【36.0k 保安橋付近の河道の状況】



【27.0k 乾橋付近の河道の状況】



(出典：青森河川国道事務所資料)

(3) 下流部の河道特性【五所川原付近～河口部】

下流部一帯は大規模な三角州が発達した低地である。途中、五所川原市(旧金木町)で旧十川を合わせ、芦野堰下流からは感潮区間となり十三湖を経て日本海へ注いでいる。

この区間の河床勾配は約 1/30,000 程度の緩勾配で、河床の代表粒径は約 0.2～0.8mm 程度となっている。

【14.0k 岩木川・旧十川合流点付近の河道の状況】



【9.0k 付近の河道の状況】



【0.0k 付近の河道の状況】



(出典：青森河川国道事務所資料)

(4) 十三湖の河道特性

十三湖は水戸口で日本海に通じる汽水湖で、面積は約 18km²、水深は約 1m となっている。水戸口は過去において河口閉塞し、その度に幾度となく開削を繰り返してきたが、昭和 21 年に導流堤が完成してからは河口の閉塞は解消され、現在もその機能が維持されている。

【十三湖】



【水戸口】



(出典：青森河川国道事務所資料)